

株式会社日清製粉グループ本社 連結業績予想

厳しい環境の中、収益は下期にコストダウン施策効果があらわれて前年並みの水準に回復するが、上期のマイナス幅が大きく、通期で減益の見込み。売上高は通期前年並みの見込み。

[158期中間連結決算]

株式会社日清製粉グループ本社（社長 正田 修）の158期中間連結決算は、当初業績予想に対して、売上高は食品事業が低価格志向の影響などにより、減収となりました。飼料事業では畜産用飼料の値上げ及び養魚用飼料の出荷好調により増収となりましたが、全体としては食品事業の売上減少の影響が大きく、減収となりました。

営業利益は当社を取り巻く業界全般でデフレ傾向が強まる中、調達から生産、販売、流通に至るまでの全領域でコストダウン施策を実施しましたが、予想を上回る価格低下により、当初業績予想に対して、食品事業を中心に収益が低下し、減益を余儀なくされました。

[158期連結決算業績予想]

158期連結決算業績予想は、下期では食品事業で市場ニーズに応えた新製品の開発・投入などで売上の落込み幅は回復し、飼料事業で畜産用飼料が値上げとなることなどからグループ全体で増収となります。上期の減収をカバーして、通期では売上高は4,030億円とほぼ前年並みの見込みです。

収益面では、食品事業をはじめ各事業で上期より取り組んできましたコストダウン施策の効果が大きく実現することなどから、グループ全体で下期は前年並みの水準に回復しますが、上期の減益幅が大きく、通期では前年比減益となり経常利益170億円、当期純利益95億円となる見込みです。

[158期中間キャッシュ・フロー]

中間期のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが、分社関連費用の支出がありましたが12億66百万円の増加となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、鶴見工場小麦粉ライン増設がありましたが、資金運用の短期化で93億3百万円の増加となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは1億67百万円の増加となりました。

[158期中間単体決算]

当社は本年7月2日に全事業を分社し、持株会社となりましたので、中間期の単体決算は、7～9月の営業収益が各事業会社に移管され、売上高806億円（前年比49.3%減）、営業利益19億78百万円（前年比70.1%減）、経常利益30億99百万円（前年比59.1%減）、中間純利益28億30百万円（前年比45.9%減）と大きく減少いたしました。

以上